

大学女子サッカー選手がなでしこリーグに抱くイメージに関する研究

A study about the image women university players have of Japanese Women's Football League

1K10C093 大宮玲央奈

主査 原田 宗彦先生

副査 倉石 平先生

【緒言】

2011年7月、女子サッカー日本代表（通称：なでしこジャパン）がドイツワールドカップで優勝を果たし、この躍動のおかげで多くのメディアでも取り上げられ、多くの人々の興味関心を集めるようになった。日本女子サッカーリーグ（通称：なでしこリーグ）の観客動員数増加など、サッカーを「見る」という立場で支えている人の中ではなでしこリーグへの注目度が高まりイメージが向上してきている。しかしサッカーを「する」選手の立場で特に大学女子サッカー選手では、4年制大学・短期大学出身者が高校出身者やユース出身者などに比べ少なく、なでしこリーグ入団への壁が高い現状がうかがえる。以上のことから、4年制大学・短期大学の選手はなでしこリーグに対し良いイメージを持っていないのではないかと考えられた。また、「女子サッカーの発展なくして日本サッカーの発展なし」と言われるように、大学女子サッカーというカテゴリーの発展は、日本女子サッカー及び日本サッカーの発展に繋がると考えられる。

【目的】

本研究では、なでしこリーグについてどう感じているのか、先行研究の少ない大学女子サッカーに着目し、大学でサッカーを「する」という選手の立場から、日本のトップリーグであるなでしこリーグをどのように認識しているのかを明らかにし、選手が抱くなでしこリーグへのイメージ向上のために必要な施策を提言することとする。

【方法】

大学女子サッカー選手を対象に、質問紙を用いた調査を行った。全日本大学女子サッカー連盟に加盟している大学の中で関東地域が最も多い割合であり、全日本大学女子サッカー選手権大会でも最多優勝回数であることから、関東大学女子サッカーリーグ1部の許可を得ることの出来た9チーム、149名の選手を調査対象者とした。得られた回答から、SPSSや親和図法を用いてなでしこリーグの選手イメージ、なでしこリーグに対するイメージなどの比較分析を行った。

【結果】

調査において、なでしこリーグの選手に対するイメージをポジション・競技年数・競技レベル・希望進路・関東大学女子サッカーリーグでの所属大学の順位という5つを比較対象として分析し、その結果、ポジション・競技年数・競技レベルは大学卒業後の進路に影響しないことが分かった。しかし、順位はなでしこリーグの選手のイメージに大きく関係していた。9チームを3チームずつ、上位・中位・下位とグループ分けし、上位チームの方がネガティブなイメージを抱き、下位チームの方がよりポジティブなイメージを抱いていることがわかった。また、全体的になでしこリーグを志望する選手が少ないこともわかった。順位も高くレベルも伴った大学の選手たちが、なでしこリーグの選手にポジティブなイメージが弱いことが大学卒業後になでしこリーグを志望する選手が少ない要因だと考えられる。下位チームでは、選手イメージは良いものの、大学卒業後にサッカーを引退しようと考えている選手が多くみられた。また、観客と選手でのなでしこリーグに対する認識の違いも見受けられた。

親和図法を用いたなでしこリーグのイメージ調査では「サッカー」「リーグ」「内面的魅力」「チーム」「ファン」「選手」「外見的魅力」「スポンサー」という8つの要素に分類した。「サッカー」にはとてもポジティブなイメージを抱いているが、「内面的魅力」でネガティブなイメージを抱いており、選手イメージ同様「親しみやすさ」のなさがネガティブなイメージの大きな要因になっていることがわかった。

【考察】

関東大学女子サッカー選手を見れば、なでしこリーグに自ら進んで志望する選手は少ないことがわかった。大きな要因として「上位チームのなでしこリーグに対するイメージの低さ」と「下位チームの大学卒業後のサッカー離れ」が挙げられる。大学女子サッカー選手になでしこリーグの選手をより身近に感じてもらい「親しみ」を生むことができれば、上位チームの選手のなでしこリーグの志望度が高まることが考えられる。また、大学女子サッカーのレベルと位置づけのさらなる向上によって、大学サッカーはなでしこリーグへの「通過点」という認識を持ち、下位チームのサッカー離れも少なくなると予想される。